

営農情報（小麦）

～麦類の赤かび病防除と今後の管理について～

令和6年3月14日
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

12月から2月の高温の影響で、小麦の生育が昨年と同様に平年より急いでいます。出穂期が昨年より早まる可能性があるため、赤かび病防除の準備を早めに行いましょう。特に11月中旬までに播種されたほ場では、生育進度が平年よりかなり早くなっており、注意が必要です。それぞれのほ場での状況をしっかり確認して、適期防除に努めてください。

また、今後の降雨は麦の収量・品質に大きく影響します。枕地や排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないよう排水対策を徹底してください。

※出穂期：全茎数の40～50%が出穂した日
出穂とは、止葉の葉鞘から穂の先端
（ぼうは含まない）が現れたことをいう。

穂揃期：全茎数の80%以上が出穂した日

写真の左が出穂の様子、右が開花の様子



1 赤かび病防除

「赤かび病」は麦の収量・品質に大きく影響するだけでなく、病気の原因菌が産出するカビ毒（デオキシニバレノール等）による健康被害が大きな社会問題となっています。確実に防除を実施し、赤かび病の発生を防ぎましょう!!

品種	予想出穂期	11月20日播種小麦の防除時期（目安）	
		1回目（開花最盛期） 出穂後7～10日後	2回目 1回目の5～7日後
シロガネコムギ	3月25～28日ごろ	4月上旬ごろ	—
ちくしW2号			4月上中旬ごろ

※防除時期は、11月20日に播種した場合の予想出穂期を基にした目安です。

播種が早ければ出穂期は早く、遅ければ遅くなると予想されます。気象庁予報の4月10日までの気温では、平年より高い見込みとなっていますが、今後の気温の経過で出穂状況は変動します。ほ場の出穂状況の確認を必ず行い、適期防除の実施をお願いします。

【赤かび病防除薬剤】

体系	農薬名	希釈倍率	10a 当たり 散布量	備考
粉剤	トップジンM 粉剤 DL	-	4 kg	出穂期以降 2 回以内 収穫 14 日前まで
液剤	トップジンM 水和剤	1000 倍	100L	
無人航空機	トップジンM ソル	8 倍	0.8L	

※ちくしW2号は赤かび病にやや弱いので、2回目の防除も確実にいきます。

2 穂揃期追肥（ちくしW2号）

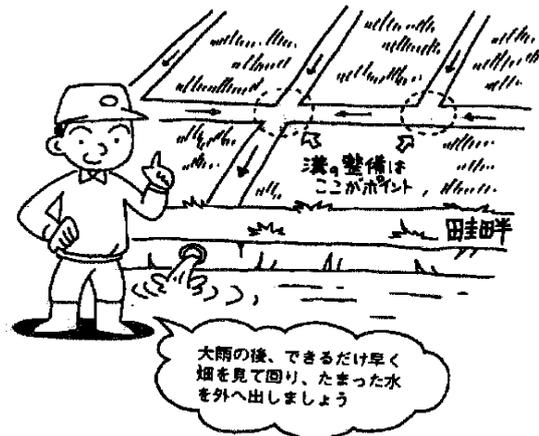
「ちくしW2号」は、子実タンパク質含有率（目標値 12.0%）を確保するため、穂揃期追肥の実施が必須です。生産者ごとのばらつきをなくし、一丸となってJA 福岡大城の小麦品質を向上させるため、確実に実施してください。

	1回目	2回目
尿素 赤かび病防除 と同時実施	開花期（出穂の7～10日後） 4kg/水 100L/10a	1回目の5～7日後 4kg/水 100L/10a
硫安	穂揃期～その7日後（出穂 10日後） 20kg/10a	—

※追肥を行った時期が1月上旬のほ場や葉色が淡いほ場、雑草が多発生しているほ場の場合、尿素を5kg/10aに、硫安を25kg/10aに増やします。

3 排水対策

畝溝と枕の横溝の交差部分の溝をさらえ、排水口との連結を行い、雨水がほ場外へ確実に流れ出るようにしましょう。



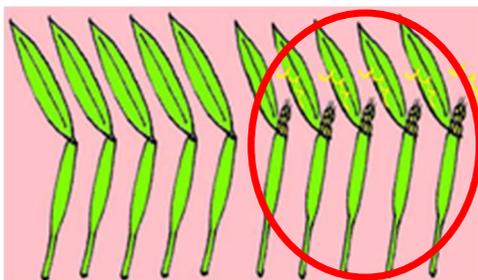
【参考】

出穂



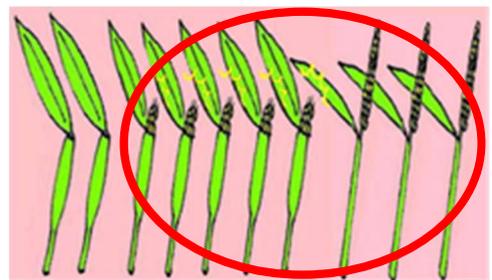
穂の先端が少しでも出た状態

出穂期



穂の先端が出ている茎が全体の5割

穂揃い期



穂の先端が出ている茎が全体の8割

～「慣れ」と「油断」が事故を招きます～
”安全”な農作業と農薬使用を徹底しましょう！